

1. はじめに

跳び箱運動は、助走・踏み切り・着手・空中姿勢・着地の一連の動作をスムーズに行い、様々な支持跳び越し技に挑戦して、跳び越えることの楽しさや喜びに触れて行う運動である。また、切り返し系の技や回転系の技の発展技に取り組んだり、ペアやグループで動きをそろえたりするなどして、演技を楽しむことができる運動でもある。

事前にアンケートを実施した結果、苦手としている児童も多くいるのが現状であったため、いかに跳び箱運動への苦手意識を克服できるように学習を計画していくかが大切になってくると考えた。そのため、跳び箱運動の醍醐味である「跳べた」という喜びを自信につなげ、楽しいと感じられる学習になることを目指し、基本的な支持跳び越しの3つの技（開脚跳び・かかえ込み跳び・台上前転）を学級の全員が跳ぶことができるようになるというテーマを設定した。

2. 指導の実際

(1) 単元計画

		1	2	3	4（本時）	5	6
核となる 学習内容		学習の進め方 や用具の準備 の仕方を知る	用具の準備・集合・整列・挨拶・慣れの運動				
			切り返し系の技 ・開脚跳び ・かかえ込み跳び 回転系の技 ・台上前転 （発展として、首はね跳び）			回転系の技 ・台上前転 ・首はね跳び	切り返し系の技 ・開脚跳び ・かかえ込み跳び 回転系の技 ・台上前転 （首はね跳び）
学習内容		オリエンテーション 用具の準備の仕方 技の確認	活動① 【パワーアップタイム】 ローテーション 活動② 【グループタイム】 グループ練習		活動① 【チャレンジタイム】 個別練習 活動② 【グループタイム】 相互評価	活動① 【パワーアップタイム】 ローテーション 活動② 【チャレンジタイム】 個別練習	活動① 【チャレンジタイム】 個別練習 活動② 【グループタイム】 相互評価
評価 の 計画	関	②	①	④		③	③
	思	②			①	①	
	技			①			①

学習の流れとしては、ローテーションやグループタイムを取り入れ、グループでの活動の機会を設け、友達とのかかわりが生まれるような単元構成にした。また、単元を通して、跳び箱運動に必要な素地を養う「慣れの運動」を導入で取り入れた。「慣れの運動」では、楽しみながらできるようにペアでの運動を取り入れたたり、ゲーム性のある内容にしたりして行った。



手押し車でじゃんけん



馬跳び (15 秒間)

(2) 指導の工夫

①学習カード

単元を通した学習カードを活用して授業を行った。全6時間分の学習のめあてを事前に記入しておき、学習の流れが明確になるように作成した。学習のめあてに加えて、本時の自己のめあてを記入して毎時間振り返ることができるような形式にした。自己の課題を克服できるようなめあてを立てているか確認し、具体的なめあてになるように助言したり、一緒に考えたりして次時の学習へとつなげた。

期1期 11月22日 (水)	学習のめあて	進捗	やる気
		学習のめあてを達成しよう	
期2期 11月25日 (金)	学習のめあて	友達と協力しながら決めたポイントを確認して練習に取り組みよう	
	学習のめあて		
	次の学習のめあて		
	学習のめあて		
期3期	学習のめあて	友達と協力しながら決めたポイントを確認して練習に取り組みよう	

②場の設定

基本的な支持跳び越しの3つの技（開脚跳び・かかえ込み跳び・台上前転）ができるようになるための場を設定した。単元の前半では、様々な場をローテーションで回り、練習したい場を見つけ技の習得を図った。児童の様子を見て、事前に計画していた場ではなく、技の習得が低い技の場を増やしたり難易度を上げたりもした。また、児童が課題を解決するために自分たちで場をアレンジできるような教具を用意した。

例えば、着手に意識がいくように、跳び箱の上に赤と青のテープを貼り、跳び方によって手を着く位置の目安になるようにした。また、振り返りを見ると、跳び箱運動に欠かせない着地の完成度を高めたい児童や台上前転の足を伸ばして回ることを意識したいという児童が多かったため、マットにテープを貼って着地点の目安になるようにしたり、ゴムひもに足の形をつけたものを使用したりして、児童の課題に即して場に変更を加えていった。



足を伸ばして台上前転する感覚を身に付けるためのゴム



着地の目安となるテープ

③かかわりを重視した学習の流れ

普段から友達と協力したり、困っている友達に声をかけたりすることができる子どもたちであるので、本単元でもその良さを活かしたいと考えた。そこで、お互いの成長を伝え合えるグループでの活動を重視した。そのため、かかわり合いをすることを目的に、男女混合異質グループの編成を行い、毎時間の学習の始めにはグループで話し合いをしたり、中盤から終盤にかけては技を見合ってアドバイスし、振り返りを伝え合ったりする機会を設けた。



台上前転で足を伸ばすことを意識して練習してくるよ。



もう少し手に体重をかけるといいよ



膝が胸に引きつけられているかな。

④技の拡大図

「わたしたちの体育」に掲載されている技を拡大し活用した。踏み切りや着手などの各動作のポイントをそれぞれが考え、付箋に書いて貼りつけていった。全員で作り上げた拡大図によって、どのポイントを意識して練習に取り組みばいいのかを判断しやすくしたり、友達へのアドバイスに活用したりできるようにした。また、跳ぶことができた児童は、拡大図の中に花を貼っていった。



3. 成果と課題

【成果】

- 単元を通して同じグループで行ったことで、友達の上達ぶりが分かったり、アドバイスや声かけなどが活発になったりするなど、学習が進むにつれて友達とのかかわりが次第に多くなっていった。
- 技の拡大図を活用し、技のポイントを発表したり全員で共通理解したりしたことで、自分がどのポイントを意識して練習に取り組みばいいのかを判断しやすくなった。さらに、友達へのアドバイスの言葉にも活用されることにつながった。
- 上記のような指導の工夫をしたことで、跳び箱運動に対する情意面に変化が見られた。学習前には、跳び箱運動が好きですかという質問に対して、「好き」9名、「どちらでもない」7名、「好きではない」8名だった。「好きではない」理由の多くは、「跳ぶのが苦手で、落ちたことがあるから」「跳べないから嫌い」という怖さや跳べないためというものだった。学習を進めていくと「友達と協力して、いろいろな所でアドバイスし合ったり、技を達成したりした時にすごく楽しかった」「跳べなかった技ができるようになったり、より高い段で跳べるようになったりしたからうれしかった」という肯定的な感想へと変容していった。そして、学習後には、全児童が「好き」と回答した。また、学習に対する情意を「楽しさ」と「やる気」で5段階の数値化をしてみると、前者は、学習前の4.2から学習後には4.8に、後者は、学習前の3.8から学習後には5.0へと向上した。

①【跳び箱運動は好きですか】

	学習前	学習後
好き	9名	24名
どちらでもない	7名	0名
好きではない	8名	0名

②【跳び箱の学習に対して】

	学習前	学習後
楽しさ	4.2	4.8
やる気	3.8	5.0

※5段階で自己評価

全員達成を実現した技では、くす玉を割り、全員で喜びを味わった。全員チャレンジを意識したテーマ設定により、苦手な児童が他の技もできるようになりたいと意欲的に活動することができた。



【課題】

- 本単元の技能面で目標としていた3つの技（開脚跳び・かかえ込み跳び・台上前転）の習得については、課題が残った。全員達成ができたのは開脚跳びと台上前転で、かかえ込み跳びは習得に至らなかった児童が3名いた。目標としていた全員達成するためには、教師のかかわり方や指導の仕方、児童の実態に応じた段階的支援の場の工夫が必要だと感じた。
- 本時は、思考・判断の観点での評価を計画していたが、この1時間ですべての児童の様子を見とるのは非常に難しかった。児童の学習への取り組みの様子を知ることができるような学習カードなどを準備し、見とりの助けにしていこう必要があると感じた。